

## 平成30年度男女共同参画推進に関する意識調査結果

(実施期間:平成30年9月20日～10月19日)

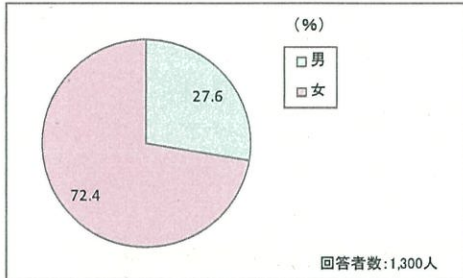
| 職 種       | 回答対象者数<br>(人) | 回答数<br>(人) | 回収率   |
|-----------|---------------|------------|-------|
| 教員        | 386           | 144        | 37.3% |
| 医員        | 176           | 27         | 15.3% |
| 研修医       | 72            | 24         | 33.3% |
| 看護師       | 725           | 629        | 86.8% |
| メディカルスタッフ | 209           | 128        | 61.2% |
| 事務職員      | 435           | 239        | 54.9% |
| 技術職員      | 99            | 78         | 78.8% |
| その他       | -             | 29         | -     |
| 無回答       | -             | 2          | -     |
| 合 計       | 2102          | 1300       | 61.8% |



# アンケートの集計結果

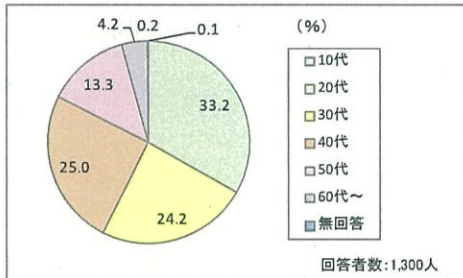
## <プロフィールについて>

### 問1 性別



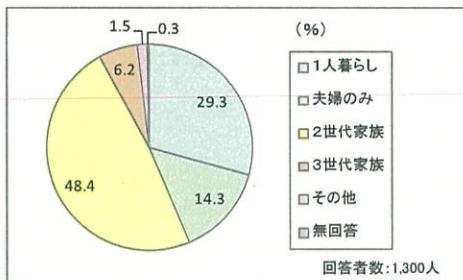
回答された方の性別は「男」が27.6%に対して「女」が72.4%と、女性が男性の約2.6倍となっています。

### 問2 年代



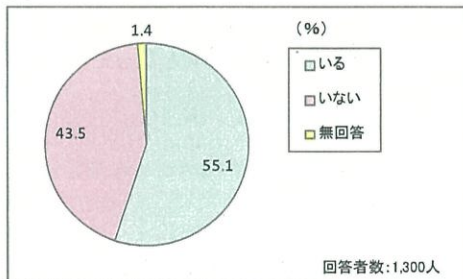
最も多い年代は「20代」の33.2%で、以下「40代」の25.0%、「30代」の24.2%となっています。

### 問3 家族構成



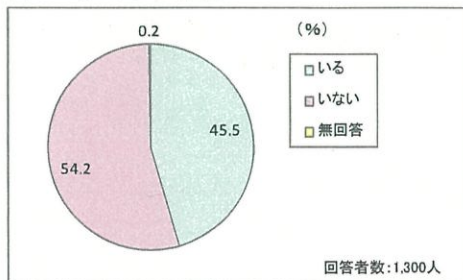
最も多い家族構成は「2世代家族」の48.4%で、以下「1人暮らし」の29.3%、「夫婦のみ」の14.3%となっています。

### 問4 パートナー



パートナーの有無では「いる」方が55.1%で、「いない」方の43.5%を11.6ポイント上回っています。

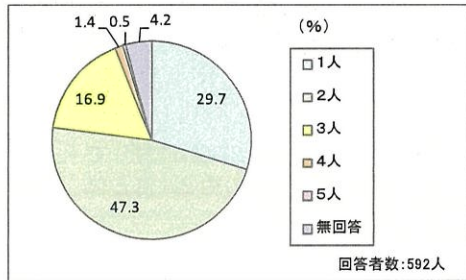
### 問5 子どもの有無



子どもの有無では「いない」方が54.2%で、「いる」方の45.5%を8.7ポイント上回っています。

(問 5 で子どもが「いる」と答えた方)

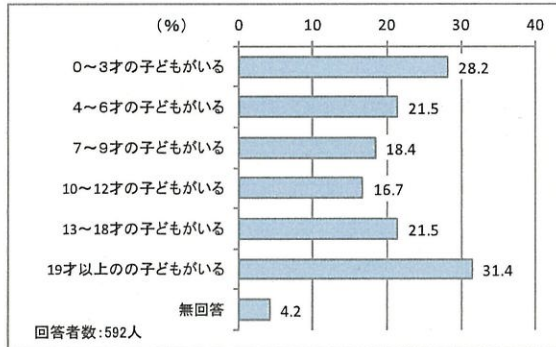
問 6 子どもの人数



子どもがいる方の子どもの人数の内訳は「2人」が47.3%で全体の過半数近くを占めています。以下「1人」の29.7%、「3人」の16.9%となっています。

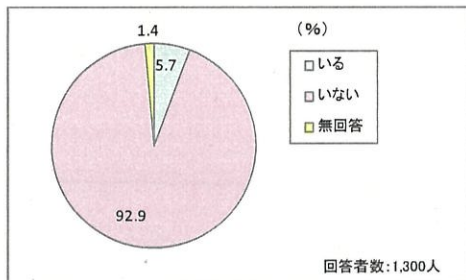
(問 5 で子どもが「いる」と答えた方)

問 6 子どもの年齢階層別子どもの有無(複数回答)



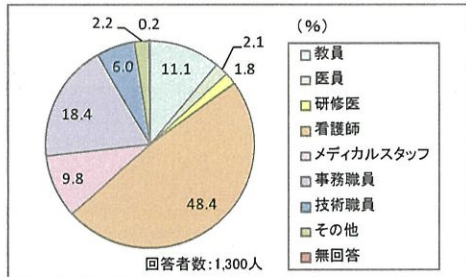
子どもがいる方を年齢階層別にみると「19才以上の子どもがいる」方が最も多く31.4%、以下「0~3才」の28.2%、「4~6才」「13~18才」が同率で21.5%となっています。

問 7 要介護者



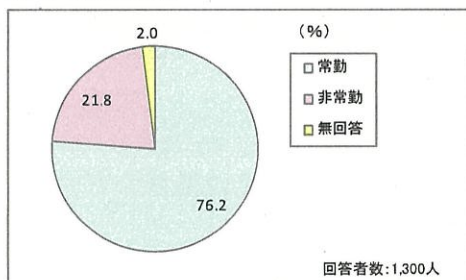
要介護者の有無では「いない」方が92.9%で「いる」方の5.7%を大きく上回っています。

問 8 職種



最も多い職種は「看護師」の48.4%で、以下「事務職員」の18.4%、「教員」の11.1%となっています。

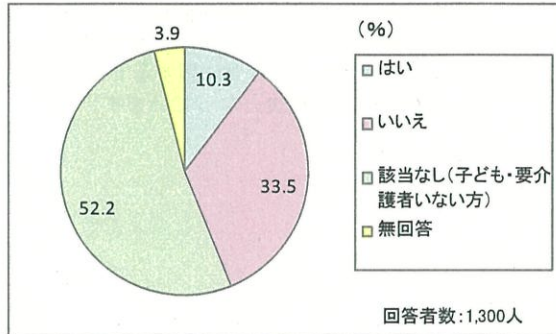
問 9 勤務形態



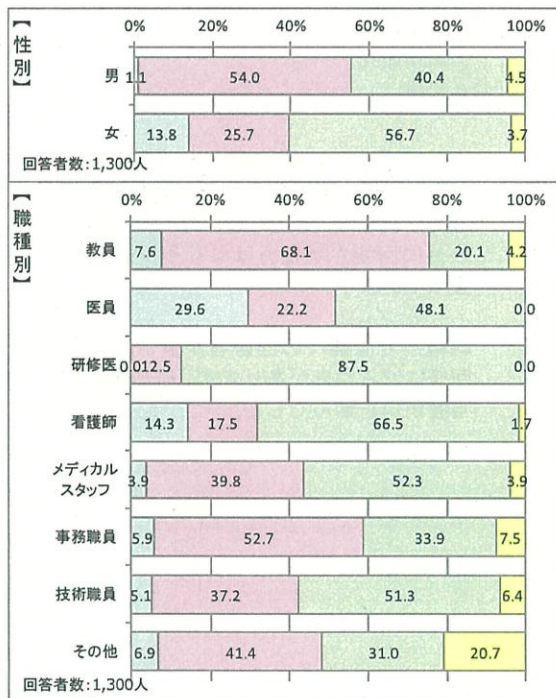
勤務形態は「常勤」が76.2%で「非常勤」の21.8%の約3.5倍となっています。

<勤務制度の利用について>

問 10 「短時間勤務」、「早出遅出出勤」などの勤務制度を利用されたことはありますか



勤務制度を利用された方(「はい」と回答された方)は10.3%、利用されなかった方(「いいえ」と回答された方)は33.5%で、全体では10人に1人、勤務制度の利用に該当する方(子ども・要介護者がある方=「はい」+「いいえ」+「無回答」)では5人に1人強が勤務制度を利用していることとなります。

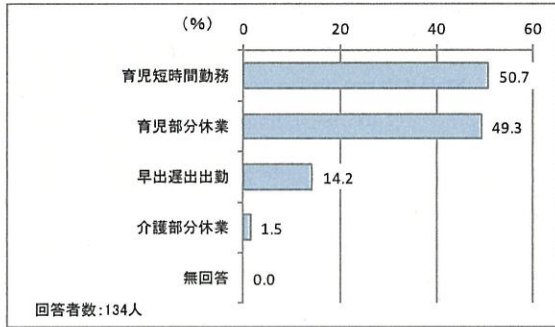


勤務制度を利用された方(「はい」と回答された方)を性別で見ると女性の13.8%に対して、男性は1.1%にとどまり、性別による違いが表れています。

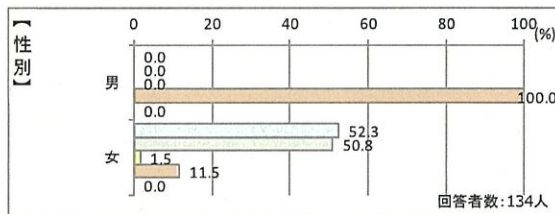
職種別で見ると医員の29.6%が最も多く、以下、看護師の14.3%、教員の7.6%の順となっていますが、研修医では回答された方はなく職種によっても違いが表れています。

(問 10 で「はい」とお答えの方)

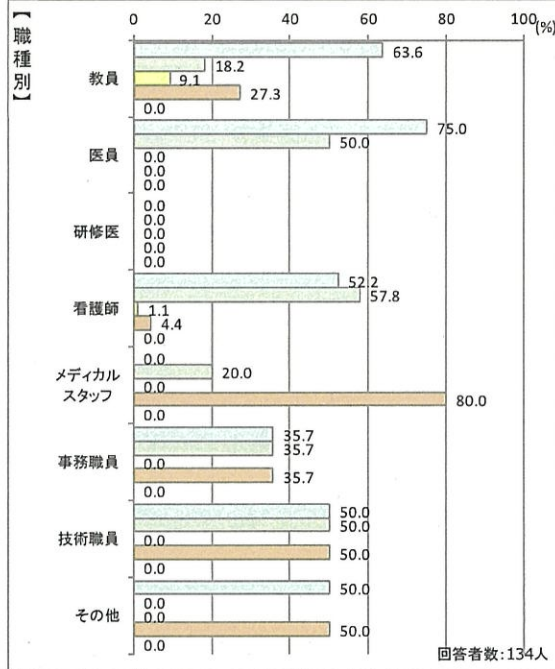
問 11 利用したことがある勤務制度は何ですか(複数回答)



勤務制度を利用された方の最も多く利用されたことがある勤務制度は「育児短時間勤務」の50.7%で、次に「育児部分休業」の49.3%と、育児に関する2制度が全体の過半数前後となっています。



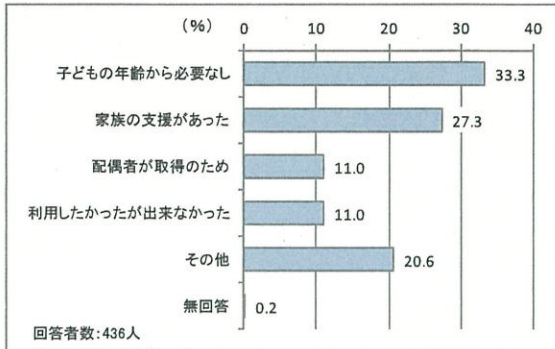
性別でみると全体で最も多い「育児短時間勤務」が女性でも52.3%と最も多くなっていますが、男性では「早出遅出出勤」以外に回答された方はなく男女差が際立っています。



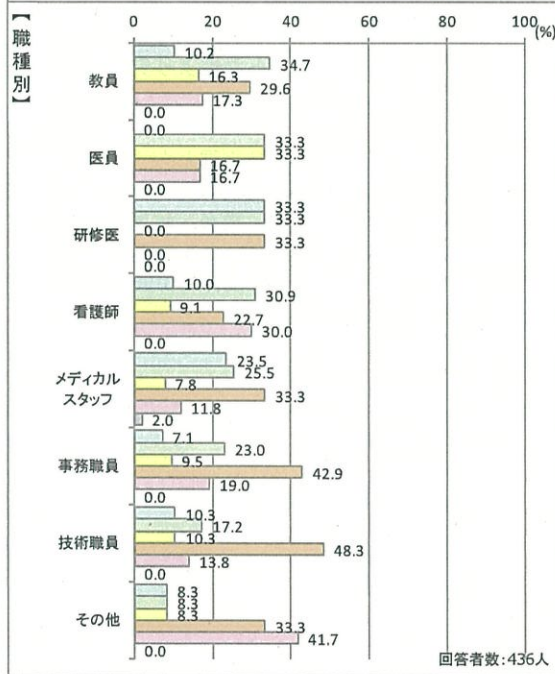
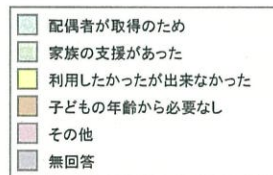
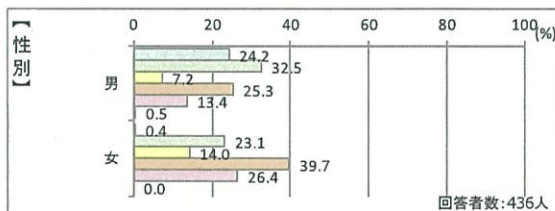
職種別では個々の回答者が少ないため回答にばらつきがあります。研修医は該当者がいませんでした。

(問 10 で「いいえ」とお答えの方)

問 12 勤務制度を利用しなかった理由は何ですか(複数回答)



勤務制度を利用されなかった方が最も多い理由は「子どもの年齢から必要なし」の 33.3%で、以下「家族の支援があった」の 27.3%、「配偶者が取得のため」「利用しなかったが出来なかった」が同率で 11.0%となっています(「その他を除く」)。

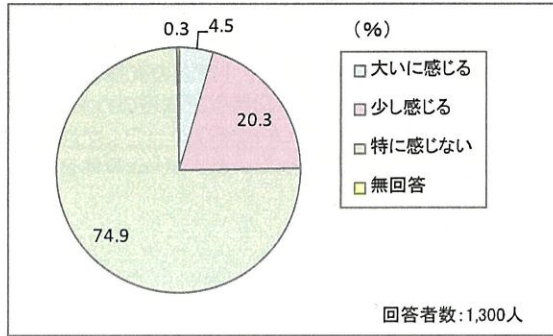


性別で見ると男性では「家族の支援があった」が最も多く、次に「子どもの年齢から必要なし」となっているのに対して、女性では「子どもの年齢から必要なし」が最も多く、次に「家族の支援があった」となっています。また、「配偶者が取得のため」は男性が 24.2%に対して女性が 0.4%となっており、性別によって違いが表れています。

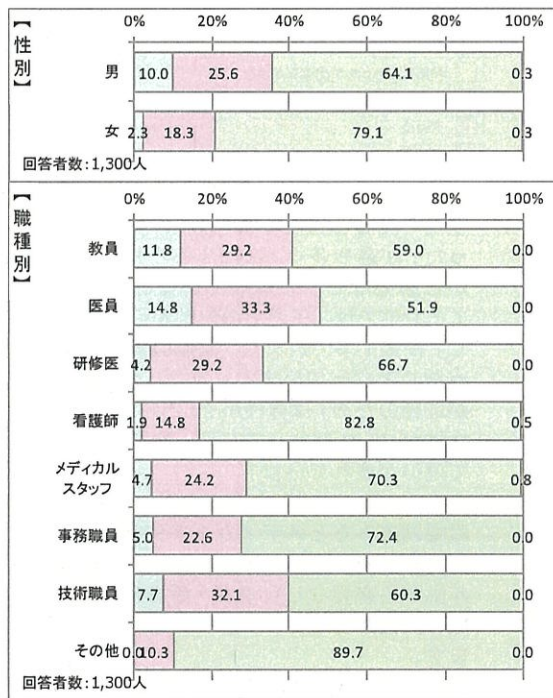
職種別で見るとメディカルスタッフ・事務職員・技術職員・その他は「子どもの年齢から必要なし」、教員・看護師は「家族の支援があった」が最も多くなっています。医員・研修医は同率のものが複数あり、職種によっても違いが表れています。

<職場環境について>

問 14 あなたの職場で男女差別を感じることはありますか



職場での男女差別は「特に感じない」方が最も多く 74.9%で、以下「少し感じる」の 20.3%、「大いに感じる」の 4.5%となっています。



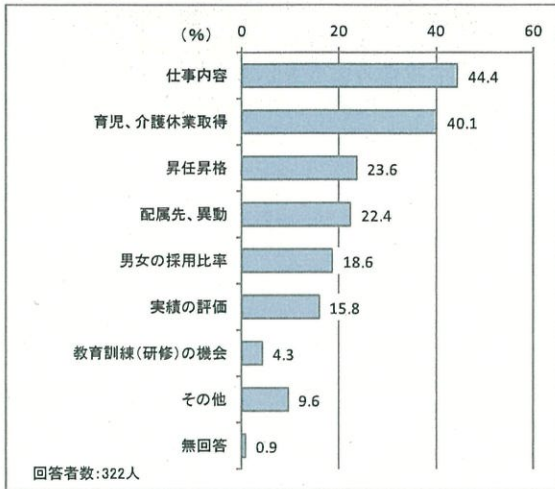
これを性別でみると男女とも「特に感じない」が最も多くなっていますが、「大いに感じる」は 7.7 ポイント、「少し感じる」は 7.3 ポイント女性より男性の方が多くなっています。

また、職種別でも、全職種とも「特に感じない」が最も多くなっています。「大いに感じる」の割合は医員・教員・技術職員・事務職員・メディカルスタッフの順に多く、ここまでが全体を上回っています。

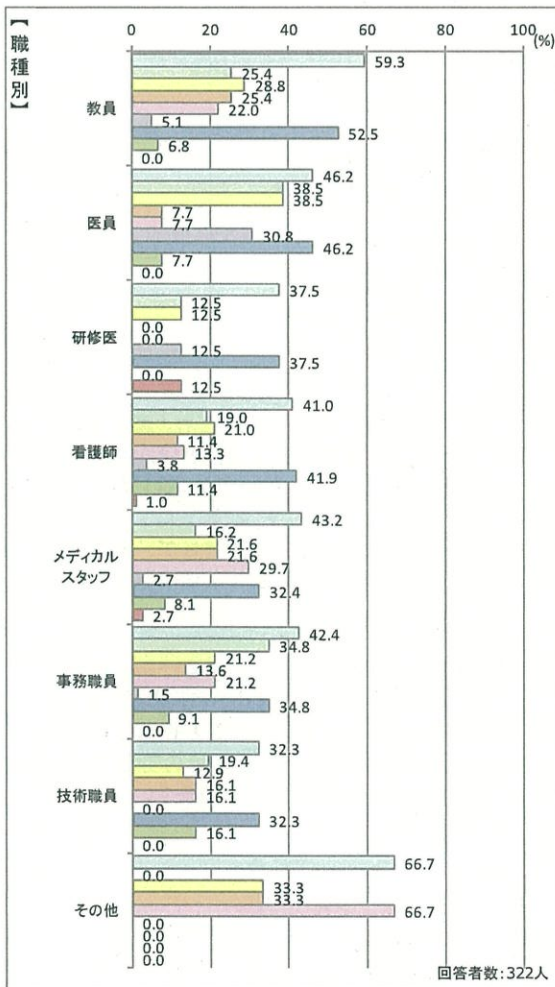


(問 14 で「大いに感じる」、「少し感じる」とお答えの方)

問 15 男女差別を感じるのはどの様な点ですか(複数回答)

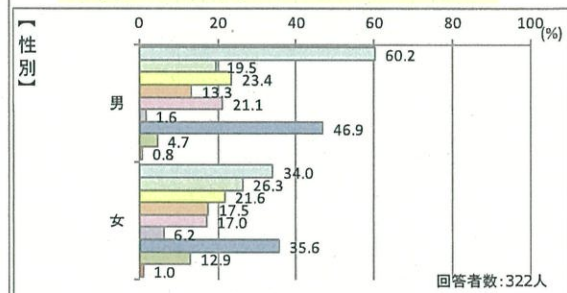


男女差別を感じる方の最も多く感じる点は「仕事内容」の44.4%で、以下「育児、介護休業取得」の40.1%、「昇任昇格」の23.6%となっています。

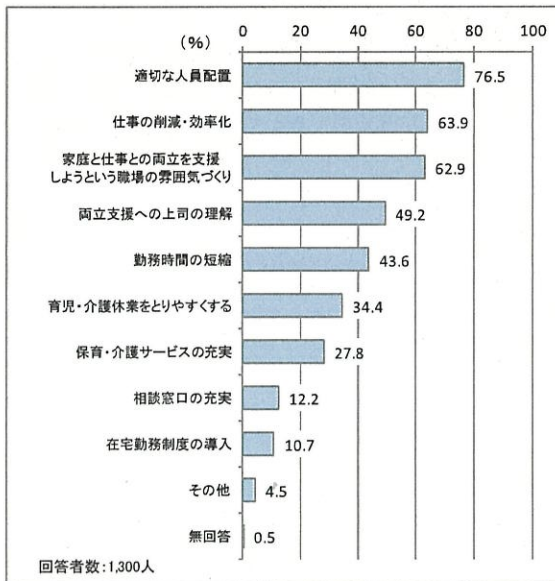


これを性別でみると男性では「仕事内容」が最も多く、以下「育児、介護休業取得」「配属先、移動」の順ですが、女性では「育児、介護休業取得」が最も多く、以下「仕事内容」「昇任昇格」となっており性別によって違いが表れています。

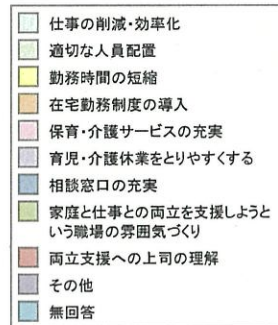
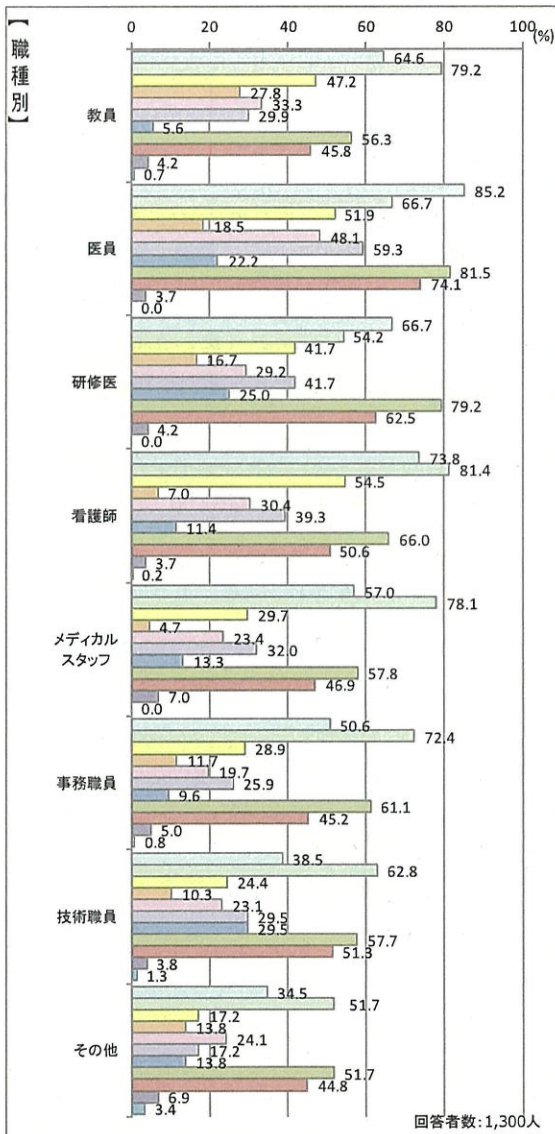
職種別でみると、教員・メディカルスタッフ・事務職員は「仕事内容」、看護師は「育児、介護休業取得」が最も多く、医員・研修医・技術職員・その他は同率のものが複数あり、職種によっても違いが表れています。



問 16 あなたの仕事と私生活を両立するために、必要だと思うものは何ですか(複数回答)

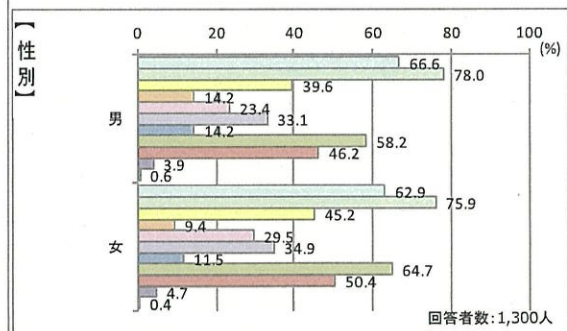


最も多く必要だと思うものは「適切な人員配置」の76.5%、以下「仕事の削減・効率化」の63.9%、「家庭と仕事との両立を支援しようという職場の雰囲気づくり」の62.9%となっており、ここまですべてが過半数を超えています。

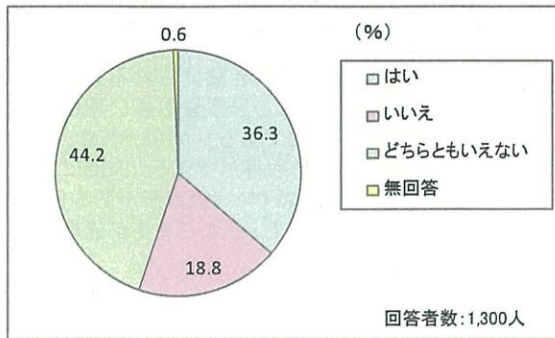


これを性別でも男女とも「適切な人員配置」が最も多く、全体と傾向は大きく変わりませんが、女性は2番目が「家庭と仕事との両立を支援しようという職場の雰囲気づくり」3番目が「仕事の削減・効率化」で、全体と逆になっています。

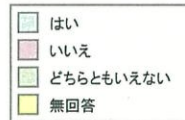
職種別でも上位3項目は殆ど変わりありませんが、医員は「仕事の削減・効率化」、研修医は「家庭と仕事との両立を支援しようという職場の雰囲気づくり」が最も多くなっています。



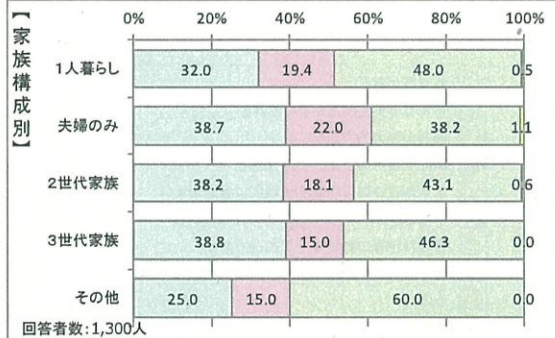
問 17 子育てをしながら働き続けられる制度があり、また、職場環境であると思いますか



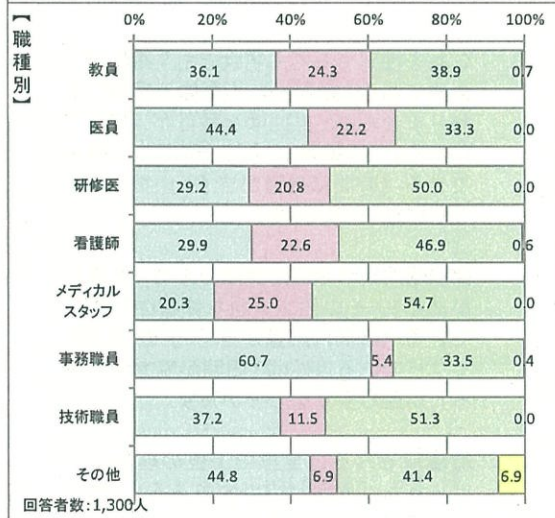
子育てをしながら働き続けられる制度と職場環境であると思うに「はい」と回答された方は 36.3%で「いいえ」の 18.8%を倍近く上回っています。「どちらともいえない」が 44.2%と最も多くなっています。



これを性別でもみて男女とも「はい」が「いいえ」を上回っています。



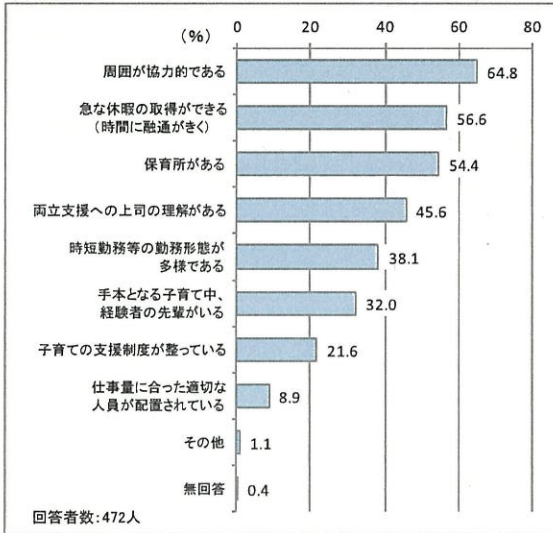
家族構成別でも全て「はい」が「いいえ」を上回っています。特に夫婦のみでは「はい」が「どちらともいえない」を上回り最も多くなっています。「はい」の割合は3世代家族で・夫婦のみ・2世代家族の順に多く、ここまですべてを上回っています。



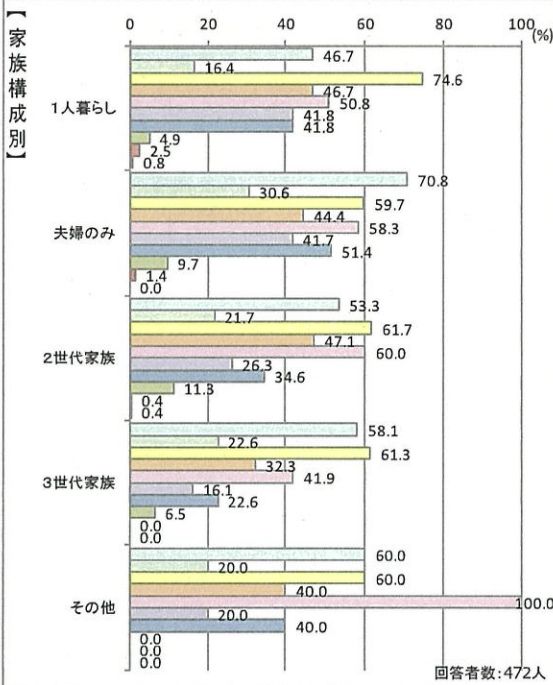
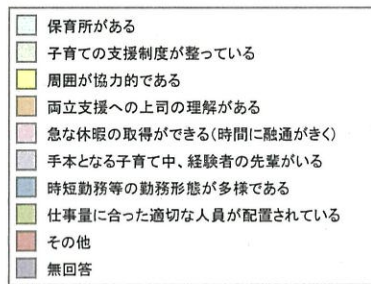
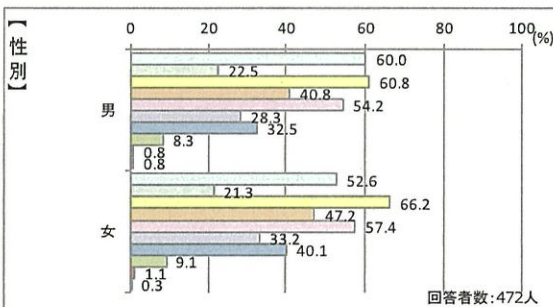
職種別でみるとメディカルスタッフが「いいえ」が「はい」を上回っている以外は「はい」が「いいえ」を上回っています。また、医員・事務職員・その他では「はい」が「どちらともいえない」を上回り最も多くなっています。事務職員は「はい」が60.7%で職種別で最も多く、逆に「いいえ」が5.4%と職種別で最も少なくなっており、他の職種と違いが見られます。

(問 17 で「はい」とお答えの方)

問 18 子育てをしながら働き続けられる制度があり、また、職場環境であると思われる理由は何ですか(複数回答)



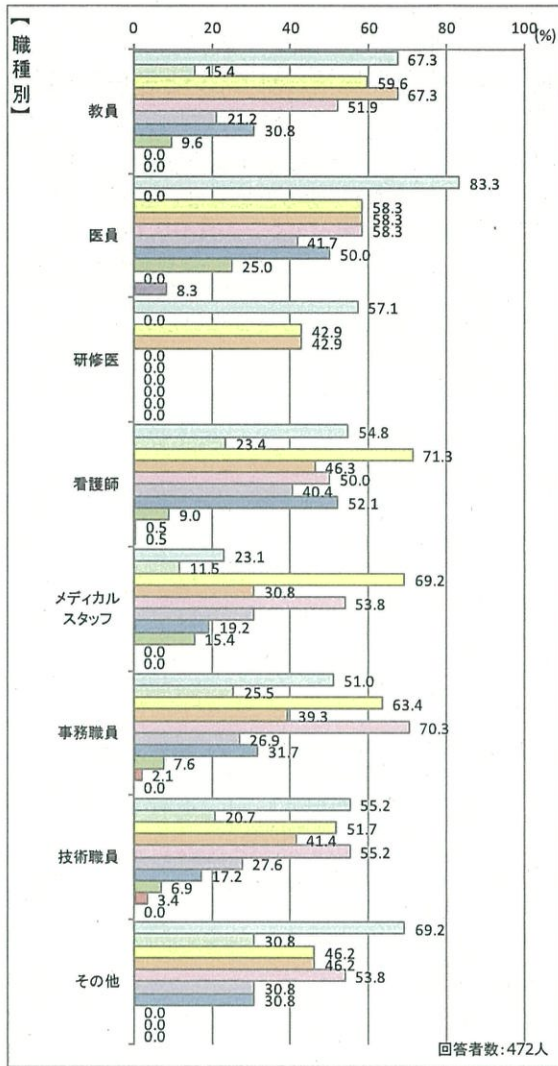
子育てをしながら働き続けられる制度と職場環境であると思う最も多い理由は「周囲が協力的である」が64.8%で、以下「急な休暇の取得ができる(時間に融通がきく)」の56.6%、「保育所がある」の54.4%となっており、ここまですべて過半数を超えています。



これを性別でも男女とも「周囲が協力的である」が最も多く全体と傾向は変わりませんが、男性は2番目が「保育所がある」、3番目が「急な休暇の取得ができる(時間に融通がきく)」で、全体と逆になっています。

家族構成別で見ると夫婦のみで「保育所がある」、その他で「急な休暇の取得ができる(時間に融通がきく)」が最も多くなっている以外は「周囲が協力的である」が最も多くなっています。

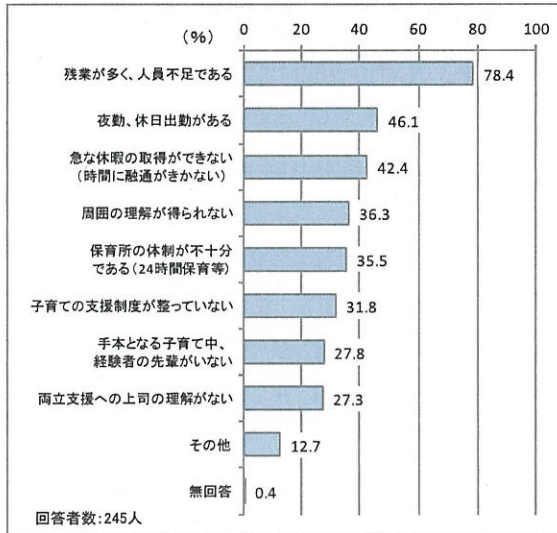
職種別で見ると全体で上位の理由に挙げられた「周囲が協力的である」「急な休暇の取得ができる(時間に融通がきく)」「保育所がある」のいずれかが最も多くなっていますが、教員では同率の理由はあるものの「両立支援への上司の理解がある」が最も多くなっています。



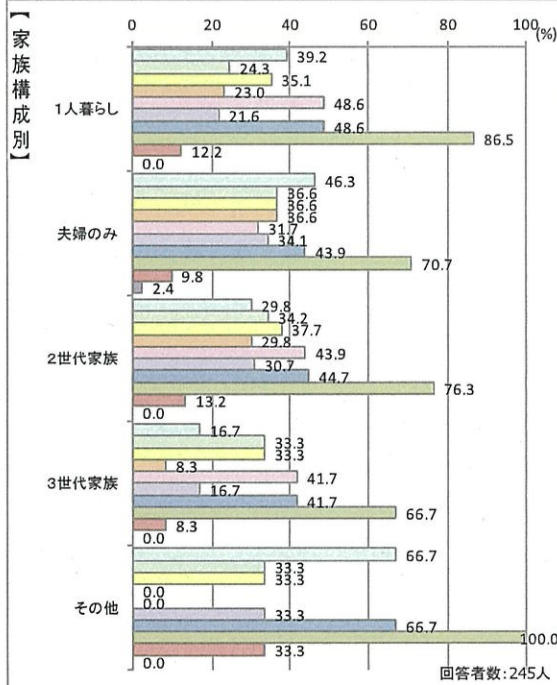
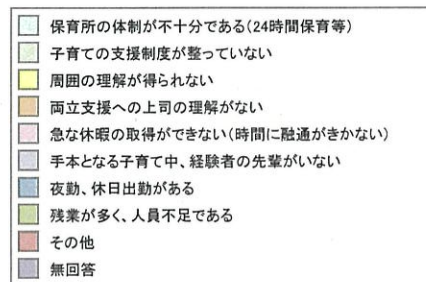
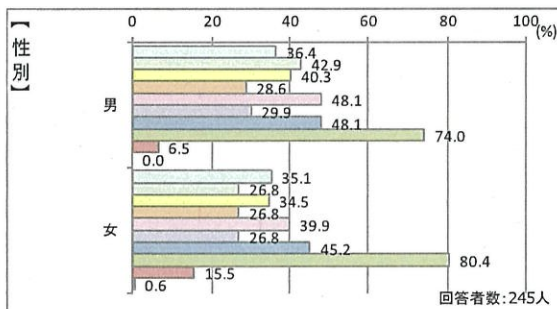
- 保育所がある
- 子育ての支援制度が整っている
- 周囲が協力的である
- 両立支援への上司の理解がある
- 急な休暇の取得ができる(時間に融通がきく)
- 手本となる子育て中、経験者の先輩がいる
- 時短勤務等の勤務形態が多様である
- 仕事量に合った適切な人員が配置されている
- その他
- 無回答

(問 17 で「いいえ」とお答えの方)

問 19 子育てをしながら働き続けられる制度が充分でなく、また、職場環境でないとと思われる理由は何ですか(複数回答)



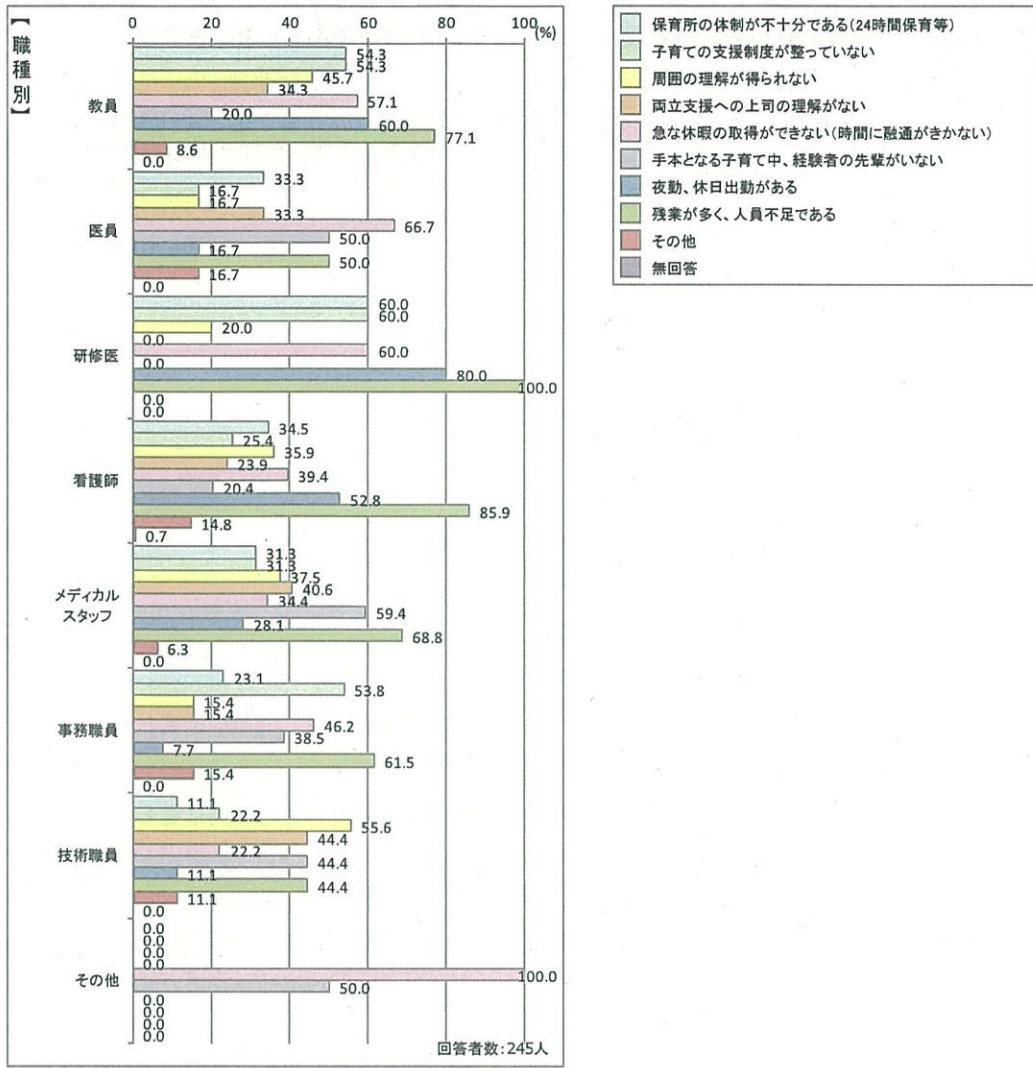
子育てをしながら働き続けられる制度と職場環境であると思わない最も多い理由は「残業が多く、人員不足である」の78.4%で、以下「夜勤、休日出勤がある」の46.1%、「急な休暇の取得ができない(時間に融通がきかない)」の42.4%となっています。



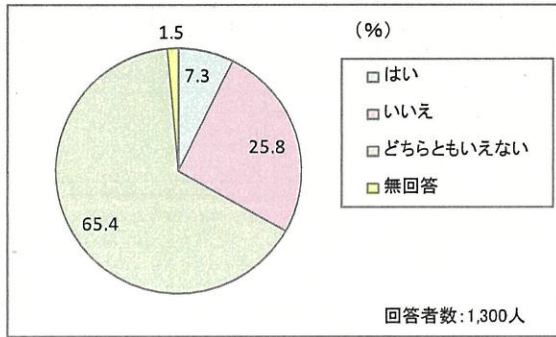
これを性別でも男女とも「残業が多く、人員不足である」が最も多く傾向は変わりありませんが、男性は2番目、3番目が同率となっています。

家族構成別では、いずれも「残業が多く、人員不足である」が最も多くなっています。夫婦のみ・その他で「保育所の体制が不十分である(24時間保育等)」が2番目に多くなっています。

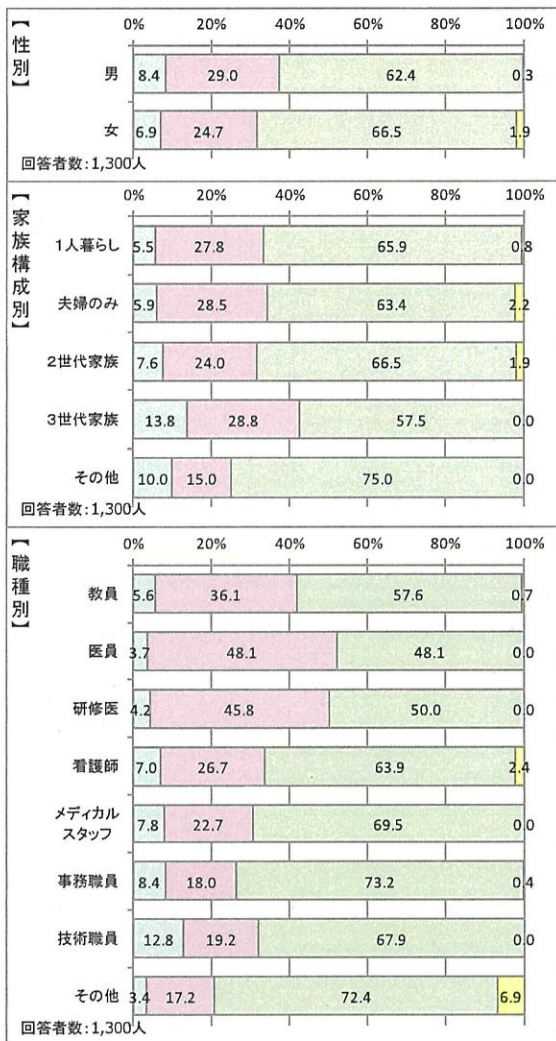
職種別では、医員・その他が「急な休暇の取得ができない(時間に融通がきかない)」、技術職員が「周囲の理解が得られない」が最も多くなっている以外では「残業が多く、人員不足である」が最も多くなっています。



問 20 介護をしながら働き続けられる制度があり、また、職場環境であると思いませんか



介護をしながら働き続けられる制度と職場環境であると思うに「はい」と回答された方は7.3%で、「いいえ」の25.8%の約7分の2にとどまっています。また「どちらともいえない」が65.4%と最も多くなっています。



これを性別でも傾向は変わりありません。

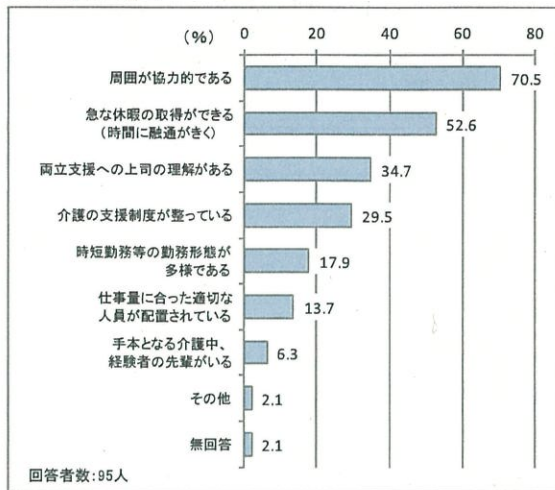
家族構成別でも傾向は変わりありません。「はい」の割合は3世代家族・その他・2世代家族の順に多く、ここまですべてを上回っており、「いいえ」の割合は3世代家族・夫婦のみ・1人暮らしの順に多く、ここまですべてを上回っています。

職種別でも傾向は変わりありません。「はい」の割合は技術職員・事務職員・メディカルスタッフの順に多く、ここまですべてを上回っており、「いいえ」の割合は医員・研修医・教員・看護師の順に多く、ここまですべてを上回っています。

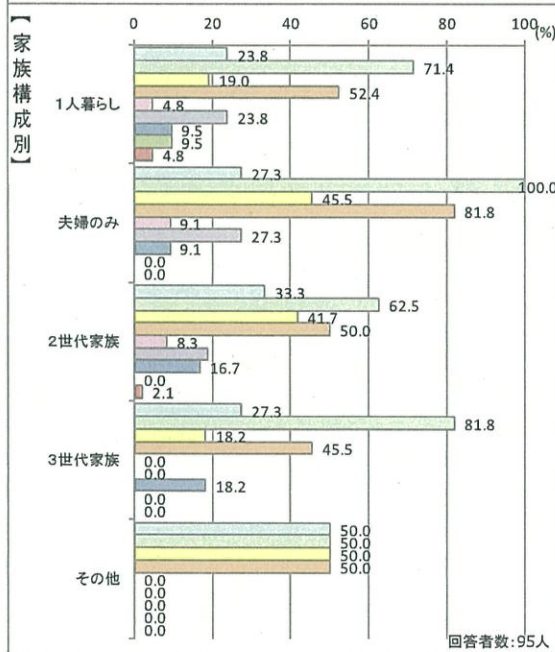
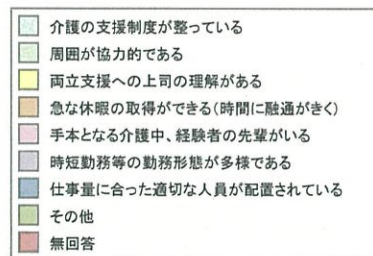
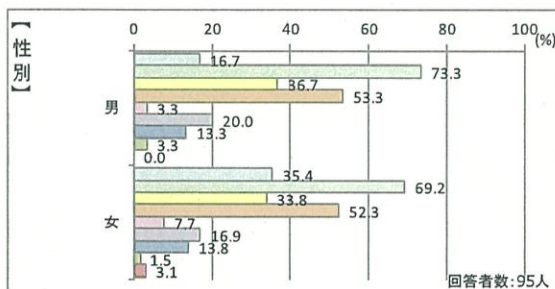


(問 20 で「はい」とお答えの方)

問 21 介護をしながら働き続けられる制度があり、また、職場環境であると思われる理由は何ですか(複数回答)



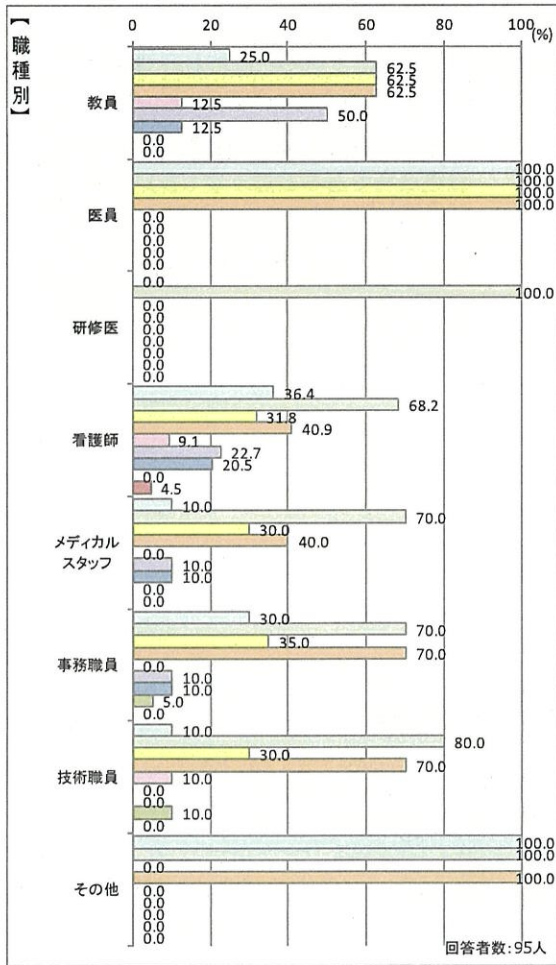
介護をしながら働き続けられる制度と職場環境であると思う最も多い理由は「周囲が協力的である」の70.5%で、以下「急な休暇の取得ができる(時間に融通がきく)」の52.6%、「両立支援への上司の理解がある」の34.7%となっています。



これを性別でも男女とも「周囲が協力的である」が最も多く傾向は変わりませんが、女性では「介護の支援制度が整っている」が「両立支援への上司の理解がある」と入れ替わって3番目となっています。

家族構成別で見るとその他で複数同率がある以外は「周囲が協力的である」が最も多くなっています。

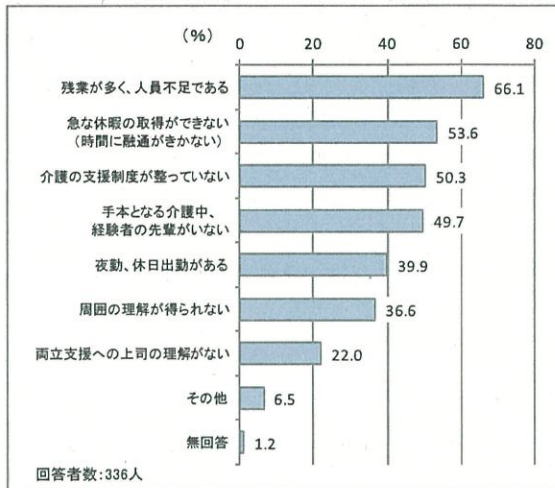
職種別でも個々の回答者数が少ないため複数同率はあるものの、いずれも「周囲が協力的である」が最も多くなっています。



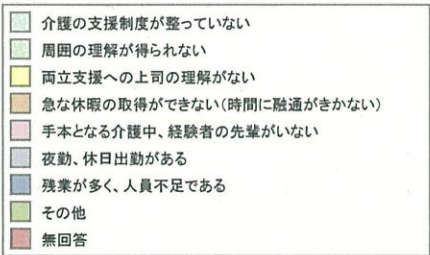
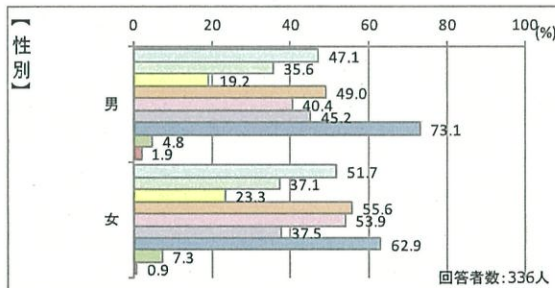
- 介護の支援制度が整っている
- 周囲が協力的である
- 両立支援への上司の理解がある
- 急な休暇の取得ができる(時間に融通がきく)
- 手本となる介護中、経験者の先輩がいる
- 時短勤務等の勤務形態が多様である
- 仕事量に合った適切な人員が配置されている
- その他
- 無回答

(問 20 で「いいえ」とお答えの方)

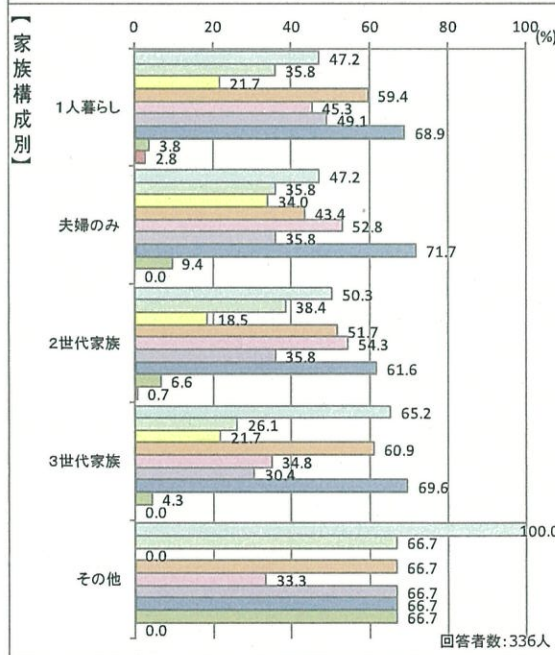
問 22 介護をしながら働き続けられる制度が充分でなく、また、職場環境でないとと思われる理由は何ですか(複数回答)



介護をしながら働き続けられる制度と職場環境であると思わない最も多い理由は「残業が多く、人員不足である」の66.1%で、以下「急な休暇の取得ができない(時間に融通がきかない)」の53.6%、「介護の支援制度が整っていない」の50.3%となっています。

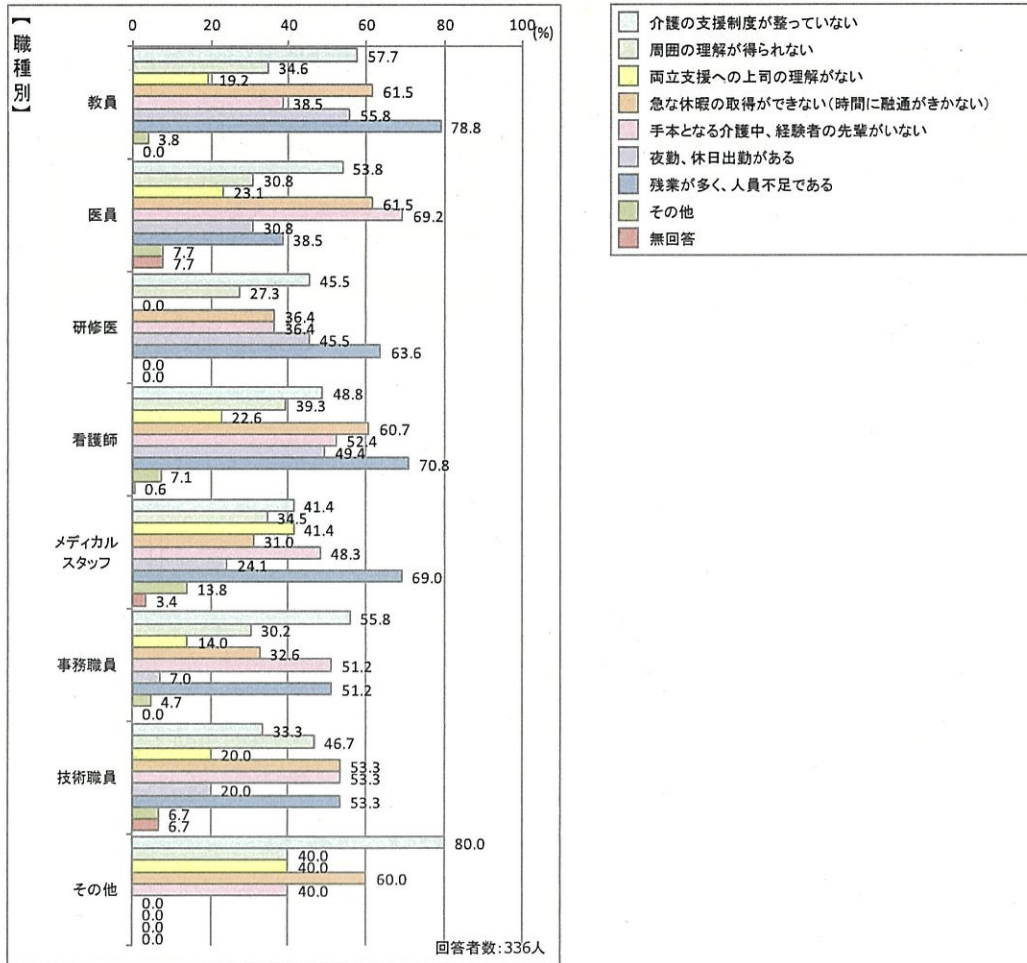


これを性別でも男女とも「残業が多く、人員不足である」が最も多く傾向は変わりありませんが、女性では「手本となる介護中、経験者の先輩がいない」が「介護の支援制度が整っていない」と入れ替わって3番目となっています。



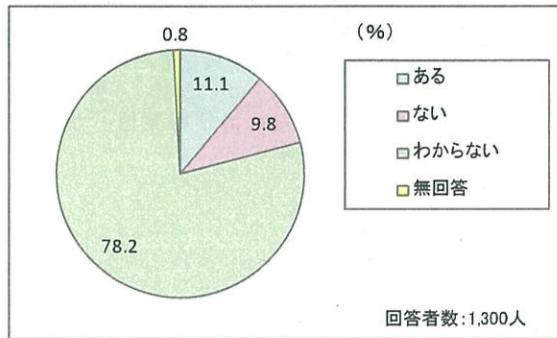
また家族構成別で見るとその他で「介護の支援制度が整っていない」が最も多くなっている以外はいずれも「残業が多く、人員不足である」が最も多くなっています。

職種別では医員で「手本となる介護中、経験者の先輩がいない」、事務職員・その他で「介護の支援制度が整っていない」が最も多くなっている以外には他に同率があるものも含めて「残業が多く、人員不足である」が最も多くなっています。

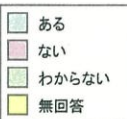
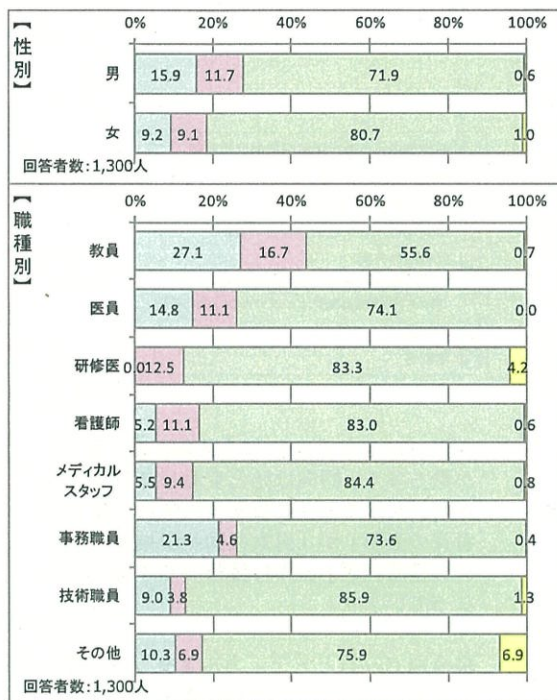


<本学の男女共同参画の取り組みについて>

問 23 この3年間に、本学の男女共同参画の取り組みで進んだと感じるものはありますか



本学の男女共同参画の取り組みが進んだと感じるものが「ある」と回答された方が 11.1%、「ない」が 9.8%に対して、「わからない」が 78.2%と最も多くなっています。

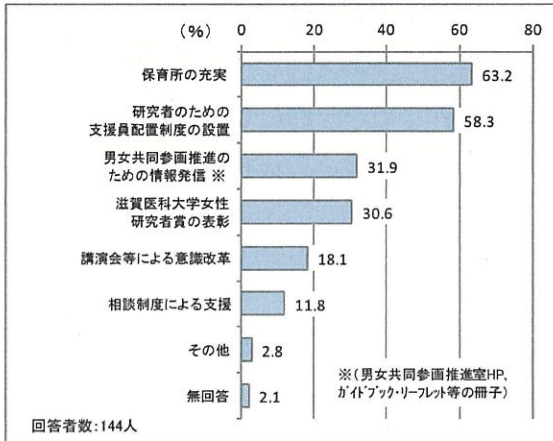


これを性別でも全体と傾向は変わりありませんが「ある」で 6.7ポイント、「ない」で 2.6ポイント女性より男性の割合が多くなっています。

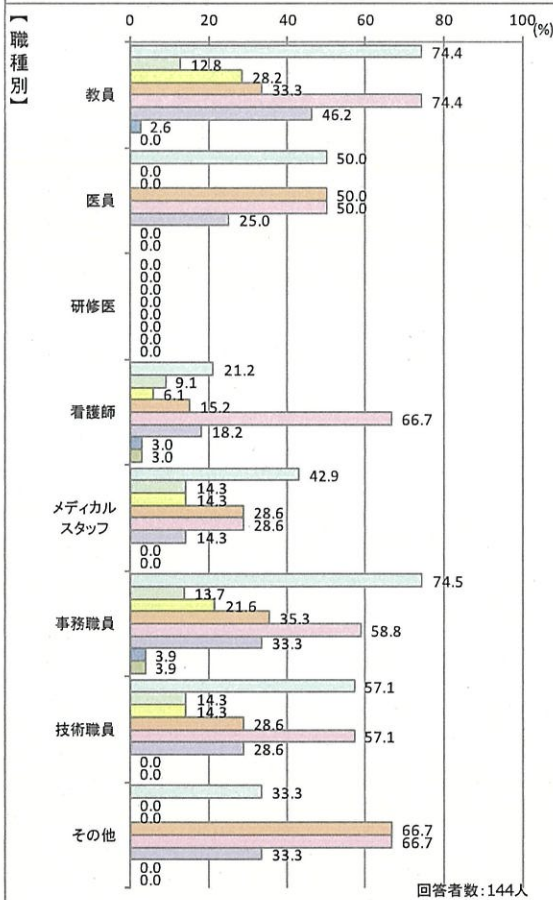
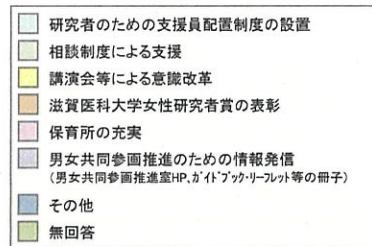
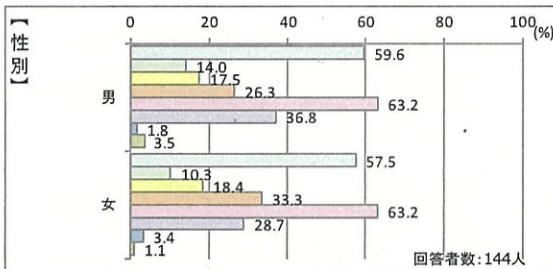
職種別でみると、「わからない」が最も多くなっている点は変わらないものの、研修医・看護師・メディカルスタッフでは「ない」が「ある」を上回っており、特に研修医では「ある」と回答された方はいませんでした。「ある」の割合は教員・事務職員・医員の順に多く、ここまですべてが全体を上回っています。

(問 23 で「ある」とお答えの方)

問 24 この 3 年間に、本学の男女共同参画の取り組みで進んだと感じるものは何ですか(複数回答)



最も進んだと感じるものは「保育所の充実」で 63.2%、以下「研究者のための支援員配置制度の設置」が 58.3%、「男女共同参画推進のための情報発信」が 31.9%となっています。



性別でも男女とも「保育所の充実」が最も多く、傾向は殆ど変わりありませんが、女性では「滋賀医科大学女性研究者賞の表彰」が「男女共同参画推進のための情報発信」と入れ替わって 3 番目となっています。

職種別で見るとメディカルスタッフ・事務職員で「研究者のための支援員配置制度の設置」が最も多く、他は同率のものがあるものの「保育所の充実」が最も多くなっています。研修医は該当者がいませんでした。